

みぞぐちとし



活動報告45号
2012年12月発行



林工土木科募集停止で 大分県教育長に申し入れ

まったくの「寝耳に水」で大変驚きました。82年と云う長い歴史を持つ「林工の土木科」が来年度から募集を停止すると新聞発表されました。土木科の卒業生は、地元の土木建設業での活躍だけでなく、市内の農林業や他の産業界にも多くの人材を創ってきました。

この土木科が存続出来なくなれば、市内の多くの産業に多大な影響が生じてきます。

10月22日市長をはじめ、自治会連合会、商工会議所、建設業界や林工の同窓会、PTAの方々と県の教育長に「要望書」を手渡し、存続の強い申し入れをおこないました。

結果、現在の林工の建築科を建築土木科に変更し、建築コースと土木コースを設け募集するようになりました。ホッとしましたが、「少子化」の影響をさらに、認識しました。



12月定例会の日程	
議事運営委員会	11月26日
開会	11月30日
一般質問	12月7日～ 12月11日
議案質疑	12月12日
常任委員会	12月13日～ 12月17日
閉会	12月19日

11月10日福岡で民主党の「政策進捗報告会」の抽選に当選し参加してきました。

会場入り口は、ボディチェックや持ち物の検査など物々しく、偉い人が来るのかなと思っていたら、野田佳彦総理が来たのにはびっくりしました。

しかも司会者は、かの蓮舫参議、もう一人の答弁者は直嶋副代表と錚々たるメンバーでした。

参加者の意見、質問に答えるという形式でかなり辛辣な批判的な意見から、激励など活気あふれる内容でした。

選挙の質問に対して総理自ら「奇策はない、今日のように国民の意見を聞き、マニフェストを作り上げ堂々と闘っていく」と答えていましたので、作成に時間が掛かるので年内解散はないと思っていたら、14日のTVを見て驚愕。一体どうなった「のだ」と唖然としています。



気がかりな民生費、公債費 23年度 決算委員会報告

歳出の状況（目的別歳出）

	決算額	対前年比	構成比
議会費	3億4千万	24.6	0.9
民生費	106億4百万	4.5	28.0
衛生費	27億3千万	7.7	7.2
農林 水産業費	18億2千万	9.0	4.8
商工費	20億	0.9	5.3
土木費	45億2千万	8.4	11.9
教育費	39億8千万	4.5	10.5
公債費	52億5千万	1.9	13.9
合計	378億7千万		



民間の企業であれば、決算を審議しそれにより次年度の経営計画を立てる為大変重要視されますが、行政機構では予算案は非常に重視し審議されませんが決算の審査はそれほど注目はされません。しかし市の財政全般に対する問題、課題が明らかになる重要な審査だと個人的には考えています。その、23年度の「決算委員会」が、10月26日から11月2日に亘り開催されました。

主な概要は、左表に示して
いるとおりですが、毎年指摘されるように民生費と公債費が大きな割合を占めています。会議費の伸びは昨年度選挙があつたためです。
平成27年度以降合併による臨時財政対策費が年毎に減るため、市の財政は非常に厳しくなると予想され今後、行財政改革がより求められることとなります。
また、市長の公約である人件費の20%削減は、23年度は動きが見られませんが、今後は注目せざるを得ません。

負担額の状況

市税 一人当たり	109,623円	県内上位から 6番目
市債現在高	410億4382万円	県内では 4番目に多い
市民一人当たり に換算すると	57万6337円	県内中位
経常収支比率	90.2%	県内5番に 低い

歳出・人件費（性質別歳出）

	決算額	前年比	決算に対する構成比
人件費	60億5354万円	0.1%増	16.0%

政策より政局とした 大分県市議会議員研修会

10月29日、TVで良く見かける政治アナリスト伊藤淳夫氏の「流動化する日本政治、その展望と課題」という内容で研修会が開かれました。いつもは政策に関するものが多く、今回は話題の政局であつたため興味津々の内容で、大変面白く聞きました。

講演の中で「権力を握ると暴走する。誰かがチェックしなければならぬ」と強調していたが、その通りだと考えます。しかし、民主党にはチョット厳し過ぎるのでは、と思っております。

氏の見方では、来年一月解散一月総選挙と言っていました。果たしてどうなることか。まさに流動的です。（はずれでした）



氏の話では、総選挙があると自民党200議席近く 民主党80~100、維新の会が40~50になる言っていました。果たして・・・？

環境委員会 木質バイオマス

木質バイオマス 活用計画

北部九州豪雨で流木による被害が大きな問題になりました。

その一因である林地残材の活用を進めている岡山県の津山市の「バイオマスタウン構想」について視察しました。

津山市は平成16年の台風23号で森林面積1200ha、約15億円の倒木被害を受けました。



木質バイオマス施設

このため森林整備の促進とそれによる間伐材や倒木をバイオマスエネルギーとして活用するためこの構想が策定された。

現在、国の交付金を活用してバイオマスの建設の進

めています。

加えて、間伐材等を買上げてバイオマス化する社会実験も始められています。

日田市も木質バイオマスによる「発電所」の建設が計画されています。

間伐材等の買い上げ価格や地域に及ぼす影響等が大きな研究課題となっており大変興味深い取り組みとして受止めてきました。

温暖化防止策とCO2の削減



パネル利用した太陽光発電

全市で、市民の協力を中心にし温室効果ガスCO2の削減や、温暖化防止策を実施している倉敷市を訪れ、市庁舎内に設けられた「太陽電池設備」や市民や観光客に無料で貸し出す電気自動車など、日田市では行われていない取組みについて研究してきました。



議会災害対策会議の設置

今回の災害では、市民から「市議会議員は何をしてたのか」という意見を多く頂きました。

このような大災害時に、議員の行動を規定し、一致して市の対策本部をサポートする議会の体制作り検討のため、既に条例を制定している佐伯市議会に内容について伺ってきました。

要点は

災害が発生した後、一時的な緊急措置が落ち着いた時間に対策本部をサポートする目的で設置すること。

議員の安否確認と行動が市民からみえる体制にすること。

これらを中心にした、条例にすれば議員が災害復旧において、その持ち場持ち場で活動出来るのではないかと結論を得たと考えています。

他の会派ともはかり、早急に条例案として提案できるよう検討を進めています。

竹宵との相違

白杵の「竹宵」祭りとのやり方の違いについて、訊ねてきました。

(1) 伐竹を筒業者に有料で依頼している。

(2) 使用後の竹を「夢たい肥」という堆肥の原料にしていること。

(3) 市が多額の補助金で助成していること。

等がありました。



堆肥の原料になる使用後の竹

特に使用後の竹の活用について、見習うことがないか注目しました。

皆さんの好意で「絆」が広がっています

昨年「東日本大震災」の被災地に行つて以来、宮城県の被災者の方々と交流が続いています。

先日もその方々から、「パッチワークに使う布地がない」と聞き、そのことを近所の人や友人、知人に話したら、大きい段ボール2つにいつぱいの布地が集まりました。

さっそく荷造りし送り、感謝の電話も頂きました。

これも、被災地と「絆」でつながろうとする多くの人の好意の表れだと感激しています。

またいつものボランティア



荷造り中です

高瀬本町 築堤整備工事始まる

今年度工事を実施する範囲



着々と進む工事の様子

以前から危険性が指摘されていましたが、高瀬本町の堤防が改造整備されることになり、いま着々と工事が進められています。

整備区間は700mで、整備後の堤防天場の幅員は約5mとなっています。工事期間は平成24年度から26年度となっています。堤防上は、基本的には堤防の管理用道路となっていますが、幅員は車両が充分通行でき、今後徳行橋や三隈大橋との取付けについて検討し、主要地方道日田～鹿本線のう回路としての活用を計画すべきではないかと考えています。

など、私などとても真似る社協議会の役員も務める務め、その間には高瀬福祉協議会の役員も務める自治会長を28年間も胸を撫でおろしました。無事感謝状を受けとり、がれるか心配しましたが、で、パトリアの舞台上に

ブラスワン

を崩していたのに入り少し体調を崩していましたが、

長く続けていたからと思いましたが、実父毛利三千年が文化の日に「市政功労者表彰」を受けました。高瀬で、今年に入り少し体調を崩していましたが、



今年も開催された大屋台村

10月6～8日の3日間行われた日田グルメの祭典「大屋台村」は、参加店舗46店、入場者数は約5万人と大変賑わいました。当然私も家族づれでいき猪バーガーをはじめ目に付く物片っぱしから味わってきました。この催しの定着が日田の活性化に大いに役立つものと確信しています。